NIE実践報告

1．タイトル：ＮＩＥを通して国語力の向上を図る

2．学校名

さいたま市立城北中学校

3．実践者名（代表者名）

教諭　塩崎真理

4．学年

３学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語　　１９９名

6．単元（本時の学習課題）名

新聞拾い読み

7．目標(狙い)

日頃読み慣れていない新聞記事に触れ、新聞に関心を持つとともに、読解力を身につける一助として、読み取った新聞記事から問題を作ってお互いに解き合う。

8．評価の視点

難解な語句や言い回しも理解してしっかりと朗読できること。内容をきちんと把握して、どんな問題を作るか工夫していること。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

２学期の終わりに①新聞を読み、問題文にしたい記事を選ぶ､②教師が指定した、プリントに新聞記事を貼り問題を書き、プリントを作成させる、に２時間。３学期に授業の初め５分間を使って一人ずつ発表した。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

基本的には、各自の家庭で購読している新聞を用意させたが、最近は新聞を購入していない家庭も多く、また、スポーツ新聞や経済新聞などの場合もあった。そういう場合は、図書室にストックしてあるバックナンバーの新聞をクラスに持ち込むこともあった。また、毎日新聞のご厚意で、９～１２月の４ヶ月間、各クラスに無料で１部ずつ配布していただき、教室には常時新聞が置かれている状態であったので、記事選びには大変助けられた。
３年生を対象に取り組んだのは、受験生として読解力に力を付ける試みになればと考えたからである。問題を作る立場になるということは、その内容を十分把握出来ていることが必要になってくる。また、問題の内容を考えるときも、１問１答的なものだけでなく、文中の言葉を使って答えるというようなやや難しい問題も考えてみるようにアドバイスをした。
生徒が作ったプリントはクラス人数分印刷し、授業の初めに５分間程度を使い「私の新聞拾い読み」コーナーとして一人ずつ発表した。答えは本人が用意しておき、答え合わせはクラスメートを指名して答えてもらうという形で全員に発表を経験させた。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

生徒にとって、新聞記事を国語の授業で扱うことは初めてであったので、興味を持って記事を読み、問題作りに取り組めた。毎時間友だちがどんな記事を選んで発表してくれるかを楽しみにしていた生徒も多くいたようである。

12．成果と課題

本年度は、まず「学校の中で新聞が読める」という意識が教師にも生徒にも定着されることが大切と判断した。NIEコーナーは図書室の入ったすぐに設置したが、昼休みになると必ずやってくる生徒がいたり、社会科などで株式について学習したときは大変興味を持って普段は見ないような紙面を広げている生徒もたくさん見受けられた。来年度は学年に応じたNIEの取り組みを国語のみならず、全校的に行えればよいと思う。